

編集人 大村市 秘書課長 藤 戸 三 郎  
発行所 長 崎 縣 大 村 市 大 村 市 役 所  
印刷所 つ じ 印 刷 所

### 農家向け 附別 録刷

# 甘藷増産の策

草稿 大村市普及員  
発行 大村市農協技術員  
後援 大村市内澱粉協會

私達は、作物の収量を如何にして経済的にあけるか云うことを種々、研究しておりますが、現在の収量を二倍、乃至三倍にあげ得る作物は、殆んどないようです。然し、甘藷のみは、やり方次第で、増収の幅が、非常に廣く現在、大村地方の平均収四〇〇貫程度を、一〇〇〇貫、或は一、五〇〇貫にする事も敢えて、むずかしい事ではありません。

それは甘藷の諸性質を良く知り、これに合致した栽培管理を、科学的に行う事です。今これ等の改善事項につき、項目別に大要を述べてみます。

## ① 品種の選定

現在栽培されて居ります甘藷の品種は何百千種とありますが、それら、異つた特性を持つておられますので、此の中から自分土地の條件、栽培の方法、消費目的(食用、加工原料用等)別、収穫時期の早晚、病虫害に対する抵抗力等に依り、適品種を選定すべきであります。

## ② 種藷の準備

事項 依り栽培品種が決定すれば、次の諸点に注意し、種藷の準備をなすこと。  
種藷貯蔵時の注意  
種藷の消毒

種藷貯蔵時の注意  
種藷の消毒  
種藷の消毒  
種藷の消毒

なお種藷の選別に当つては、完全に尻尾の付いてあるもの、型が正しいもの、病気がないもの、貯蔵中の管理がよく、鮮度の高いもの、なるべく揃つたものを選び、その尻尾は苗の伸長を良くするための根が多くなるからであり、更に鮮度の高い種藷、種を双物で切斷するとヤニが、直ちに浸み出るので、こんなものを選ぶ。

## ③ 種藷の反當所要量

栽培方式その他に依り、一定しませんが、個數で四〇〇個以上(重量で三〇貫、乃至四〇貫)を準備すること。

## ④ 健苗育成

よく苗半作と云われますが、諸苗の場合には苗八合作とまで云われ、健苗育成の必要な事を強調されています。苗作りには種々の方法がありますが、次に二、三の育苗法につき注意事項を述べてみます。

## ⑤ 芽出温床育苗

(1)設置場所 南向の所で北西の寒風を避け排水良好な住宅に近く、管理のしやすい

処を選ぶ  
(1)反當所要面積 二坪(六尺×一二尺、或いは四尺×一八尺)  
(2) 藪、並に踏込量、藪は簡易な藪四でよく醜態材料は八寸、乃至九寸で踏込み踏込みが終れば、その上に粗藪、又は切藪を撒き種藷の根の伸長をささげる。

(3) 床土、並びに伏せ込み 先床土を二寸程度に平均に入れ、種藷の尻尾の方が床の中央に向くように留置し、一寸間隔で並べ種藷の見えかくれる程度に覆土し、燻炭、又は切藪等を撒布し、ぬるま湯を平均にタツプリ灌水する。

(4) 芽出期の管理 障子をはずし、毎日換温をなし、初めの一週間は二七度、乃至三〇度に保つよう管理すること(第四表参照)

芽出期が十五日標準であるから、移植五日前後より、冷えない夜は、障子を外して夜の外気に慣らす。移植の時期は、芽が一、二寸、乃至一寸五分に伸長し、葉が展開したら早目に行うようとする。

伸び過ぎて移植は、断根を多くし植傷みを起し、成育の遅延を來す。もし移植適期になつても、外気温が低く、移植が出来ない場合は、ガラス等をかけ、苗の伸び過ぎを防ぐこと。

伏込みの時期を間違ふと、切角の芽出しの効果がなく、なりませぬので、移植は降霜がなくなり次第、行うようにする。即ち、この時期(四月二〇日、乃至二五日)より逆算して一五日前(四月上旬)に伏込みを行うこと。

(5) 移植床、並びに移植の方法 移植床は反當二坪、乃至三坪を準備し、二尺間隔に、なるべく深く溝を切り、坪当り堆肥二貫、硫酸三〇匁、過石四〇匁、塩加一〇匁、(下肥ならば坪一斗)を溝に施し、少しの土と切混ぜておく。

降霜がなく、直ちに移植を行うのであるが、施肥をした溝中に、一尺二寸おきに植穴を掘り、丁寧に取つて芽出し苗を、やや深目に植え込み、軽く覆土し、植付肥として五、乃至六倍に薄めた下肥、又は硫酸水(水一斗に硫酸一五匁)を施用する。移植時に畑が乾燥してゐる時は、あらかじめ灌水してから移植をなす。

移植は活着を良くするために、なるべく曇天無風の温暖な日を選んで行うこと。苗が三寸、乃至四寸に伸びたら、一株の苗数を一〇本、乃至一五本に間引し、苗がひろがるようにして土入れをなし、乾燥と、蔓根の伸長を促す。なお追肥は一、二回、下肥、坪当り四貫程度を施す

## ⑥ ビニール育苗法

ビニールの利用に依り、健苗の育成と、苗の早取り、早植をはかるために、考えられた方法で、縣では今年から、この方法の普及に乗り出してあり、麥間挿苗と併行しての奨励をも、意圖されて居ります。その方法は(増産の手引の第二回参照)

## ⑦ 露地育苗法

普通に地床と呼ばれてゐる方法で、苗を作る場合は、前記の移植床に準じ、二尺の畦を作り坪當り堆肥二貫、鶏糞、並びに、粕類五〇匁を打込んでおき、その上に、下肥三貫、硫酸二〇匁、過石二〇匁、塩加一〇匁を施して覆土をなし、待肥をしておく(伏込みの七一〇日前)

四月上旬になつてから、これに種藷を一尺おきに並べて、覆土を一寸程度に行い燻炭、殺菌等を薄く撒布しておく。その方法は(増産手引の第三回参照)

⑧ 其他 麥間育苗でも良い苗が作られます。これは種藷の苗床として、耕地を休ませておく必要のない場合である。麥を四一五尺おきに播き付け、種藷の前作として、花椰菜、夏播甘藷、高菜等を収穫して、前述の通り、待肥をなし種藷の大きさに應じて間引きを行い、土入れをなし、下肥、坪當り二貫を追肥して培土をなす。その上に麥ワラ等を敷くと効果がある。

⑨ 數葉は、苗床に於ける落根防止と乾燥防止のために行う。農林二号や、沖繩一〇〇号等の苗伸びの悪い品種は、芽出法かビニール育苗法で育苗すること。

## ④ 本畑の整地畦立

① 甘藷は畦中に氣水が透通のよいのを好むので、なるべく全面耕起後、畦立てを、したいものです。

② 畦中は土地の條件、栽培の様式等に依り異なるが、普通栽培の場合、黒土では、二尺三寸、一尺二寸五分、赤土では二尺二寸三分位が適當と思われまゝ。

③ 麥作跡地で、ハネ肥をしてある畑地ではハネ肥をしない方の部分を働き割り、そこに金肥を施してハネ肥の方を、かぶせ、畦立てをなす。

## ⑤ 挿苗

① 苗採りは朝採りをやめ、同化養分の多い夕方の採苗に改めよう。  
② 挿苗前日、尿素の葉面散布(水一斗に尿素四〇匁を溶かしたもの)を実施すれば、活着が良いと云われます。  
③ 苗は一尺内外に伸びて、充実した、一たけ苗を用いませう。  
④ 苗が伸び過ぎて、二たけ苗となつた場合でも、なるべく元苗は用いないこと。

この元苗や、貧弱な挿苗では、充分の収量を期待することは、できません。

④ 挿苗は水平植とし、深植にならないよう注意すること。

⑤ 反當り、挿苗数を増す方法としては、苗と苗の間隔を、あけないこと。

⑥ 挿苗は五月下旬から六月上旬まで(地温が攝氏一八度位になつた時)が適期です。遅植にならないよう注意すること。

⑦ 挿苗後の麥稈敷は、収量増加には大した効果はないようであり、早敷防止、並びに、雜草の發生防止には、幾分の効果はあるようです。

然し、カルチペーターに依る畜力除草等には、邪魔になりますから敢かたない事。

## ⑥ 本畑の肥料

① 堆肥は、甘藷増産に大きな役割を持つています。反當三〇〇貫以上を必ず施すよう努力すること。なお落葉等の施用も、赤土では効果が大きい。

② 金肥は、土地に依り適當に配合したものの(第五表、第六表参照)を反當一〇二〇貫、畦底深く施用すること。

③ 草木灰の効果も非常に大きいから、金肥の加里肥料にかえて、反當五〇一六〇貫を施せば経済的である。

④ 追肥は挿苗後一カ月日頃、反當硫酸二一三貫、加里二一三貫(草木灰なら二〇一三〇貫)を施すこと。なお八月下旬一月上旬、反當石灰一〇一五貫を施せば収量を増す。要は挿苗後二〇日位までは、あまり(窒素肥料は効かぬように)、窒素の早効は着藪数を減らすと謂われる。三要素の配合成分比率は窒素一に對し加里三の割合とし、肥沃地は加里をやせ地は窒素を、これより幾分か、増すよう配合すること。(第五表、第七表参照)

## ⑦ 管理

① 除草は早目に行うこと。植付後、二〇日頃までに晴天を見計し、カルチペーターの増土板を利用し、畜力で行えば能率的である。

② 蔓返しは有害無益と云われているので、やらない。農林一号や護國等、蔓伸びの良い品種で、土に根を下し易い品種は、蔓上げ程度にすること。

## ⑧ 収穫貯蔵

① 貯蔵する甘藷は、降霜前、土の乾いてゐる日に、傷の付かないよう注意して掘取り日光の直射を、うけないように一時、蔓等で覆つておくこと。  
② 黒斑病、黒腐病、紫紋羽病等におかされてゐるもの、及び傷のあるものは、貯蔵諸としてないこと。(裏面へつづく)

(第一表) 昭和29年度大村市甘藷競作會入賞者表

地区名	氏名	品名	坪当株数	反当 イモ 底
西大村	富永孝市	農林2号	平均14本	945貫
"	富永寅市	"	" 12"	808"
竹松	入口熊市	"	" 16"	105"
西大村	村上友衛	"	" 12"	771"
西大村	杉本武一	"	" 14"	771"
西大村	植本喜作	"	" 10"	770"
西大村	福井義美	"	" 13"	756"
西大村	南栄	"	" 13"	752"
西大村	中山東作	"	" 13"	747"
"	久保勝真	"	" 10"	744"

① 中白下羽：年三回一四回の発生をする。越冬は、幼虫態で土中でなすので、前年発生した畑では大体次年も発生する。九月十月の被害が、最も大きくして、時としては、蔓のみ残り、大減収を來す事がある。発生初期より、発生状況に依りB、D、T、乳劑400倍液、或いはB、H、C、三%粉劑、又等量の撒布を一三回実施する。

② 諸小蛾：年數回発生をなすが、其の被害は、中白下羽程にない。防除の方法も中白下羽に準じてなす。諸小蛾の幼虫は葉を綴り曲げ、内側より葉肉を喰害する。

③ 黒斑病：最も廣く知られている病害で生育中より貯蔵中に至る間、発生、被害を及ぼし、時として貯蔵部全部を腐らせる恐ろしいものである。本病菌は、種諸並びに堀残し諸、被害葛等で残り、翌年

(九) 病害虫

④ 貯蔵中、黒斑病の蔓延を防ぐために、貯蔵部一〇貫に對し、セレン一〇〇〜一二〇〇の割合で撒布貯蔵すれば、非常に効果が大きい。

⑤ 種諸にするものは、無病、無傷のものを選り必ず尻尾を付けておくこと。

⑥ 貯蔵室には必ず、氣抜きを立て、おくこと。

⑦ 貯蔵後は、時々室内の檢温をなし、攝氏一二度〜一五度に保つように、覆土、覆葉等で調節すること。

甘藷栽培には是非参考にして下さい

(第7表) 甘藷肥料試験成績 (渡邊法)

チツソ	リン酸	加里	反当收量		
			大藷	合計	比較
2x	2x	2x	44.7x	443.6x	100
1	2	2	31.5	494.9	112
1	2	3	41.0	578.0	130
1	3	2	28.6	504.7	114
1	3	3	49.7	566.4	128
2	2	3	86.9	540.1	122
2	3	3	47.6	553.7	125
1	3	4	83.9	653.5	147

第3表 反當株数と藷の收量

(鹿兒島農試に於ける試験成績) 供試品種 蔓無源氏

施肥量	多肥			中肥			少肥	
	本	本	〃	本	〃	〃	〃	〃
反當り株数	1,800	2,400	3,600	1,800	2,400	3,600	3,600	5,400
5月24日植え	852	900	921	739	763	799	486	540
6月7日 "	704	705	772	649	675	685	481	542
6月22日 "				600	620	635	409	497

(第4表) 伏込み後2日目の芽の発達状況

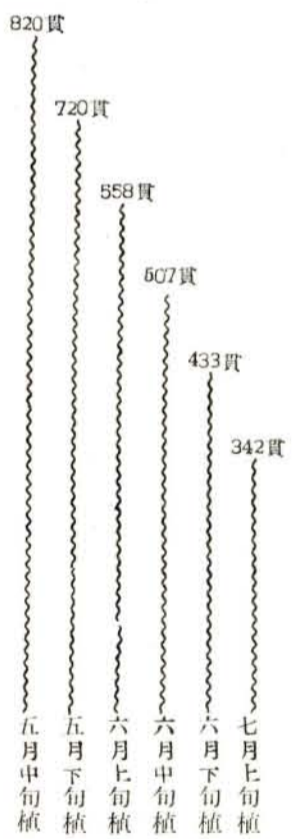
芽の発達状況 前床の條件	芽の出現率	起	未盛起	芽の状態	
				芽の長さ	太さ
33°C 湿	2%	14%	8.4	0.23mm	0.66mm
33°C 乾	3%	9.7		0.38mm	0.44"
25°C 湿	8%	9.2		0.50mm	0.54"

(第6表) 推肥の効果 (反當り貫)

チツソ	リン酸	加里	堆肥	收量
1.0	1.5	3.0	○ ×	947 685
0	0	0	○ ×	644 220
0	1.5	3.0	○ ×	630 429
1.0	0	3.0	○ ×	859 492
1.0	1.5	0	○ ×	755 140

(第5表) 甘藷標準配合肥料

成分	計					適用地帯			
	N	P	K	魚糞	植物糞	早	大村	高	
甘藷肥料第一号	2.5x	3.5x	2.0x	1.0x	1.0x	10.0x	600	620	950



さつまいもの増産は早植から

一、植付け時期を早めよう

二、適期は裸麥の熟れる十日位前であり、今更でよりも早く植付けるように致す

三、六月中旬から六月下旬まで、こゝろ早く植えると、こゝろに増収します

## 甘藷を多收穫するにはどうしたらよいか

### 甘藷の生育經過適期作業一覽表

注・気温は農事試験場調(平年午前9時)

月旬	三月			四月			五月			六月			七月			八月			九月			十月			十一月					
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
気温°C	7.4	9.5	10.1	12.6	13.6	15.4	17.7	18.5	19.2	20.2	20.1	22.9	24.1	26.2	27.2	27.7	27.2	26.0	25.4	23.9	20.9	18.7	18.2	15.9	14.6	12.2				
生育過程	つるの重さ																													
	いもの重さ																													
適要							晩霜			植付期間			六月下旬			二五日			甘藷根(細根)の分化期			十五日			十五日			初霜		
生育期間	苗床期間						適期			いもの肥大初期			いもの肥大最盛期			いもの肥大後期			收穫期											